



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジにおけるサラフィー主義の位置づけ

平成 25 年度中東情勢研究会第 5 回会合

開催日時：平成 26 年 3 月 7 日（金）18 時～20 時、於：中東調査会

報告者：高尾賢一郎（上智大学アジア文化研究所）

報告題目：サウジアラビアとサラフィー主義

出席者：青山弘之（東京外国語大学教授）、錦田愛子（東京外国語大学助教）ほか 10 名、中東調査会：高岡

概要

* 高尾より、以下の通り報告した。

1. 本報告の目的は、現在のサウジアラビア王国におけるイスラームの規範としてのサラフィー主義の位置づけを考察することである。サウジは、イスラーム諸国向けに、「自国はイスラーム文明の中心地に必然的に存在する正統なイスラーム国家である」と一国民国家を超えた正当性を主張するため、そして非イスラーム諸国に対し「過激主義やテロリズム批判、イスラームの中庸思想を、イスラームを代表して訴える」という自意識を主張するため、サラフィー主義をその拠りどころとしてきた。

2. 現在のサウジにとってのサラフィー主義は、イスラーム世界の内外に自己の正統性を訴える上で重要であり、特に「アラブの春」以降に用いられるサラフィー主義という言葉や思想は、サラフィー主義の歴史的系譜を遡るものとは限らない。

3. サウジにとっては、自国に対する 2 つの誤解、すなわち「同国はワッハーブ主義という特定の一派を信奉する国家であり、過激主義の体現者である」、「サラフィー主義は過激主義である」との誤解を解きつつ、過激主義ではないサラフィー主義が存在し、サウジがそれを体現していると訴えることが課題となっている。ここから、サウジがワッハーブ主義者であるとの汚名を返上する方法として、「サラフの教え」＝サラフィー主義が掲げられる。また、過激主義との汚名を払拭することは、サウジにとってイスラームへの反発に対抗するという以上に、国内の治安対策としても重要課題となっている。治安対策としては、過激派容疑者や支持者を対象とする思想矯正に代表されるいわゆる「ソフト・テロ対策戦略」が採用されている。すなわち、現在のサウジにおいては、サラフィー主義は単なるスンナ派正統主義のスローガンにとどまらず、自国に向けられた敵意や暴力を排除する方法論として明確に打ち出されているのである。つまり、サウジにおいてはワッハーブ主義、過激主義、サラフィー主義といった表象がサウジにもたらす誤解を解くという目的の下、一体的な課題として議論されている。

4. その一方で、現在エジプトなどで勢力伸張が論じられるイスラーム政治勢力（報道などで「サラフィー主義者」と呼ばれることが多い）に対し、サウジはこれが政治的イデオロギーとなる

ことを批判している。その結果、現在のサウジをめぐるサラフィー主義は、同国が建国の理念としているサラフィー主義と、近年勢力を拡大しているとされる政治的サラフィー主義とが対峙・並立している状況といえる。

* 質疑では、サウジ国内のどのような主体が、同国が掲げるサラフィー主義を規定しているのか、そしてサラフィー主義についての公式見解は一般にどの程度浸透しているのかについて質問が出た。また、サウジで取られている「ソフト・テロ対策」について、その実態や政策の自己点検・評価について質問が出た。サウジのサラフィー主義において、イランやムスリム同胞団はどのくらい意識されているのかとの質問に対し、高尾はサウジにとってイランはサラフィー主義をもって排除すべき対象として認識される一方、ムスリム同胞団はサウジこそが正しいサラフィー主義を体現していると主張して競合する対象と認識されているとの違いがあると指摘した。

(文責 高岡豊)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799